

ワークショップの報告 (WS 川口里中学)

日時：2013年2月16日(土) 13:30~16:30

場所：埼玉県川口市立里中学校図書室

参加者：川口、さいたま市を中心に約40名の先生方、ネットワーク関係の先生方

主な内容

1 川口市立里中学は、旧鳩ヶ谷市にあり、埼玉高速鉄道の鳩ヶ谷駅から徒歩10分ほどのところにあります。地下鉄の開通と共に駅周辺の区画整理事業が行われている最中で、東京近郊の農業地帯と住宅街の接点にある学校です。近くには見沼代用水で有名な見沼田んぼ、植木畑などをもつ大規模な農家があったり、これから大きく変貌する可能性をもった土地です。



里中学正面玄関



実践提案中の升野先生

2 この種の研修は、これまでなかなか開くことが難しかったとのことでしたが、大川先生のご努力ではじめて開催されました。当日は、若手の先生方を中心に40名近い先生方が参集され、熱心に参加されていました。

3 主催者挨拶の後、実践提案として筑波大学附属中学の升野伸子先生から「生産のしくみー生産活動のしくみの理解を通して、利潤や賃金等の公正について考えるー」がありました。この授業では、たこ焼き屋をはじめようとするおじいちゃんが、いかに資金を準備して企業をはじめたかという身近なストーリーから、企業の利潤の意味、利潤を増やすにはどうしたらよいか、それは効率的か、公正であるかを生徒と共に考えてゆく構成の授業です。説明では、たこ焼きや原価や設備120万円の償却を磁石つきのパネルで分かりやすく表示するなどの工夫も紹介されました。売上をあげる方法、コストを削減する方法に関しては、参加の先生方を生徒に見立てて意見をきくなど、実際の授業の雰囲気を出しながらすすめられてゆきました。教科書では、いきなり株式会社が扱われるなど、生徒が生産や企業を自然に理解するような構成になっていないことを経済全体の仕組みのなかで理解させるとともに、効率、公正という公民学習の冒頭でてくる概念を経営場面で想起させながら考えを深めさせるという意欲的な授業提案でした。

4 休憩のあと、篠原代表の「経済教育で生徒は何を学ぶかー中学校公民分野における経済教育のすすめ方ー」の講義がありました。現在の中学教科書は、経済的な見方や考え方ははぐくむといいながら、一貫してその視点で書かれたものが1冊しかないこと、多くの教科書はそれぞれの事項がばらばらに旧来の発想で配列されていること、問題点をもちながら変えられないのは究極には学習指導要領、教科書会社、執筆者の責任も大きいことなどが指摘されました。それを理解したうえで、生徒に経済では何を伝えるべきかを明確にした授業が必要であること、伝えるべきことは経済の仕組みであること、そのエッセンスは「分業と交換」にあることを強調されました。また、具体的な教材として「住宅メーカー職場シミュレーション」を紹介され、そのなかにある経済の循環図の理解が教える側にとってキーポイントになること、教科書を使う場合には、その循環図のなかのどこを教えているのかを踏まえた上で、授業を進めて欲しいとの要請をまとめにして、講義を終了しました。

5 最後に、今後もこの種のWSを継続すること、また、自主的な勉強会の提案などがなされて、盛況のうちに終了しました。

6 なお、参加の先生方に、里中学の総合学習（プロジェクト・シブサワ）で生徒が提案し、商品化された「さっ栗サンド」が提供されました。これは、さつまいもに栗を入れた餡を地元産の米で作ったおかきにはさんだお菓子です。このような総合学習と経済の仕組みを理解させる授業が組み合わさって行われると、生徒の経済への関心や理解が深まることが期待されるお菓子でした。

（記録文責：新井）